

桐生市の文化財

文化財番号 348

市指定史跡

公開区分 公開

種別コード 3 04 08 00

指定日 昭和37年 3月14日

指定名称

うめばらやかたあと

梅原館跡

施設名称等



所在地 桐生市梅田町一丁目25
管理者 梅原薬師堂保存会

写真は館跡に建つ薬師堂
指定種類 中世館跡
年代 鎌倉及び室町時代

概要

梅原館跡は、平安時代に桐生を所領した足利俊綱の家臣である桐生六郎(前桐生氏)の居館であり、その後、室町期になり桐生国綱(後桐生氏)によって桧杓山城が築かれ、領主の居住地が城山の麓に移された後、この館は下屋敷となりここを基点とした町屋づくりが行われたと推考される。

現在でも西及び南側の一部と北側には土塁が残り、その外側に堀跡の痕跡も認められ、館跡の南側約500メートルにわたっては、当時の町屋跡と考えられる古い町割りが残っている。

昭和63年度から平成元年度にかけて、館跡と堀跡の一部を発掘調査した結果、館跡からは前桐生氏の時期である12世紀代の遺物を認めることができ、また、堀跡は14世紀から16世紀のものと確認でき、この梅原館は桧杓山城が築城された後桐生氏の時代になっても城館としての機能を有していたことが裏付けられた。